

どう使うPFI 先進地・欧州に学ぶ

▷下◁

「どこまで低く設定すれば受注できるのか」。I氏は一段の競争激化を欧州のある銀行のPFI担当者とはため息混じりにこぼす。欧州ではPFI事業に対する金融機関の融資競争が過熱し、金利水準がどんどん低くなっているのだ。

入札費用重く

英国で発祥したPFI。欧州はじめ北米、アジア、オーストラリアなど世界へ普及し、今後市場が拡大するのは間違いない。が、欧州では課題も見えてきた。

PFIは民間資金やノウハウを活用する。金融機関はサービスの対価を基に、資金の返済を受け

る。金融機関にとって、破綻するリスクの低い魅力的な融資先だ。「欧州PFI導入から五年たってもサービス改善は遅れ気味だ。労働組合の反発が強く、週末は多くの路銀行ソシエテ・ジェネラ

透明性と競争性 明確に



民間のノウハウが十分生かされず、サービス向上が遅れるロンドンの地下鉄

準備を短縮 参入の垣根低く

と称して運休する。整備しないうえ「入札に至らない費がかさみ、初乗り運賃い事業もある」(アドルは二年間で二倍から四倍へ上がった。サービス向上にあと十年はかかる)と

とされている。〇五年にPFIを本格準備の長期化も問題だ。英国では公示から契約まで平均三十四カ月か

かる。事業まで最長で約一年。契約を精査する書も英国の数百頁に「あまりに落札を逃した企業に補助金を出し「企業が棄権するリスクを減らした」(仏入札費だけ日本はどうか。「官民で総事業費の割強にが書類をやりとりするだ上る。体力。ほとんど顔を合わせの無い企業に入札しがち」(大手は参加でき総合建設会社)。官から

再び欧州。「民間が目的。リスクを見極めて官は住民の視点からサービスの設計、監視者に

「官民の連携が十分」のフロリアン・エルマコ「三井物産戦略研究所の」委員は指摘する。

「官民意識改革を」を挙げよう。オーストリアの自治体が公共事業を民間委託しようと

「この連載は鈴木大祐が担